

3 協議会における検討経過

3 協議会における検討経過

項目	6月～8月	9月	9月～10月	11～12月	まとめ
	現在の道路計画への意見	新たな道路計画提案	新たな道路計画案への意見	新たな道路計画案の意見への検討	
	第1回協議会 第1回パブリックコメント (○;賛成、×;反対、△;その他)	第2回協議会	第2回協議会 第2回パブリックコメント (○;賛成、×;反対)	第3回協議会 (事務局提案項目)	
交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○通学路の安全を第一に ○渋滞を緩和し地域生活を安全に ○災害に強いまちづくりのために、4車線整備は必要 ×人も車も減るので整備の必要なし ×新堀川を埋めて道路を整備しても渋滞に対する効果は薄い ×登下校時の大型車規制、車の進入規制を導入すべき △片側1車線+右折レーンの3車線案で十分ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の交通量及び人口減少を考慮したH42将来交通量においても4車線が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでつぎ込んだ費用の早期効果を十分に発揮されることを望む ○街の中心部の交通円滑化を担う重要な路線であるが、現在は増加した交通量がさばけず、渋滞が発生している ○地元の意見を聞き、近隣住民や子供が安心して通れる道路整備を ×交通量は減少しており、今後25億円もかける価値はない ×交通弱者にとって、横断道路の広がりには不安感が残る 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量の詳細と混雑度の提示 ・概算工事費の提示 ・費用対効果(B/C)の算出 	<ul style="list-style-type: none"> ・現況交通量及び将来交通量に対応できる4車線道路の整備により交通を円滑化 ・車両、自転車・歩行者の安全性を確保したうえで線形を西側に寄せる見直し及び道路幅の縮小を提案 ・道路幅の縮小により道路にかかる事業費を削減した結果、整備による効果が費用を上回る
希少動植物	<ul style="list-style-type: none"> ×都市部の中心にある貴重な自然環境を破壊するな、希少動植物を死滅させるな ×先輩たちが守ろうとした新堀川は今のままに △シオマネキの生息と道路拡幅の両方ができたらいい △環境共生課の参加を求めるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路を西側へ寄せ、川面の面積をできる限り確保 ・歩行者や車両が安全に通行できる範囲で道路幅を縮小 ・駐車場撤去部に干潟と川面を創出 ・横堀公園を切り込み、干潟と川面を創出 ・高知県環境共生課がオブザーバーとして参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○反対意見に十分配慮された計画になっている ○自然環境・歴史的景観の保全は道路整備と一体的に整備することで、早期に実現できる ○自然再生の取り組みとして子供たちと一緒にモニタリングを実施すれば楽しい ×今の自然を削ってまで人工の干潟を造らないといけないのか、そのために公園の杜の木をのけてしまうのか ×人工干潟や藻場が生息地になる保証はなく、増水時の水流の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・シオマネキの主要な生息地の干潟の勾配を採用 ・小学校と連携したモニタリングや、環境学習の提案 ・希少動植物の生態学的な特徴を解説した説明板の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の拡幅により、希少種の生息・生育地の一部が消失 (公園前西側) ・道路幅の縮小と横堀公園の水域化により新たな干潟や水面を創出し希少種の保全を図る (駐車場撤去部、公園前東側) ・人工干潟創出において干潟環境の生態系の保全を主としたモニタリングの実施を提案
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ×城下町としての遺産を破壊する行為は慎むべき △協議会へ歴史の専門家委員の参加を △4車線を2車線にしたり、高架にしたりして堀を残してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・石積は出来る限り保存し、江戸時代等の積み方で復元 ・東側市道を歴史的な風情ある道として整備 ・新市橋は歴史的情緒あるような橋に架け替え ・歴史専門家へのヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ○石積を復旧し歴史の道が整備されることを期待する ○公園のリニューアルで半平太道場跡の碑の再整備を検討することができる ×幕末の頃より引き継がれた城下町や掘割の風情が消失する ×歴史を含んだ文化、人の営みを引き継ぐ観点がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸期の石垣の再生 ・新堀川の現状を写真と解説の説明版として保存 ・堀の幅を写真やマーカーで保存 ・横堀公園のリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の拡幅により、公園前の石垣が見えなくなるなど城下町の風情が消失 ・石垣はできる限り残すとともに新堀築造当初を想像させるような整備を提案 ・新市橋は、昔の堀の風情を再生するような整備を提案 ・歴史、文化の案内板と現在の新堀川の様子を表す写真記録板等の設置を提案
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ×今のままの自然を観光資源として活用すべき △環境、安全、文化をどう両立させるか知恵を絞るべき △時代に合った一番大事なものをやっつけていけばよい △新堀川を綺麗にして観光客を呼ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・供用区間の幅広歩道を憩いの場として整備 ・周辺の歴史を集約した情報発信板の設置 ・土佐っ歩の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩道整備は土佐っ歩のまち歩きに活用できる ○まちの真ん中の川は憩いの場となり、観光客が集まってくる ○産業の発展、経済活性化は道路が根幹であり、若者の定着や人口増加につながる ×利便性やスピード感に街づくりの魅力を求める時代は終わった ×まちづくりの専門家を協議会に参加させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知よさこい情報交流館のMAPへの新堀川の追記を提案 ・土佐っ歩のルートに新堀川への誘導を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな歴史の道の整備を提案 ・各種観光地図や土佐っ歩で新たなまち歩きルートを案内し観光客の誘導を図ることを提案